

## 最終レポート

氏名 ネイ・リン・ピョー（ミャンマー）

研修機関 岡山大学病院

研修内容 肝・胆・膵外科

ミャンマー出身のネイ・リン・ピョーと申します。2017年の7月5日午後2時にマンダレーを発ち、タイに午後4時に到着しました。タイの空港でおよそ6時間も過ぎさなくてはならず、その後タイを午後11時に発ちました。関西国際空港には翌日午前6時に到着しました。旅行会社のスタッフが空港で私を見つけ、岡山に向かうための午前8時半のバスへ案内してくれました。そして岡山市に午後1時ごろ到着し、バス停では岡田教授と岡山県国際課の職員と岡山県国際交流協会の職員が出迎えてくれ、その足で岡山国際交流センターに向かいました。そこで岡山県国際交流協会の事務局長にご挨拶をしました。担当職員の岡崎さんが昼食と国際交流センターから近いホテル東横インに案内しました。翌朝ブラジルからの研修員と合流しました。

私とブラジル研修員は伊原さん、岡山県国際課のモーゼスさん、岡崎さんと小田さんと共に岡山国際交流センターから岡山大学病院の近くの宿舎へ移動しました。岡山県は研修員が滞在するための宿舎を全て整えていました。Wifi設備をなどが整えられた宿舎の環境にとっても安心しました。家族や岡山大学病院の職員と連絡するのにとても便利な環境でした。翌日担当職員に宿舎まで迎えに来てもらい、ショッピングモールやビッグカメラなどでの買物なども含めたオリエンテーションが始まり、その時間に滞在中に必要な日用品などを購入しました。オリエンテーションを通して岡山市内での交通機関利用や市内について詳しく知ることができました。翌日には岡山県国際課の課長と総括参事に挨拶をしました。皆さんとても優しい方ばかりで、私たちをあたたく迎えてくださいました。面談の後担当職員の運転で再び岡山市内を移動しました。お陰で徐々に街について詳しくなりました。翌日のオリエンテーションでは滞在中の正しいゴミの出し方についても指導を受けました。日曜日は休日だったので、宿舎でゆっくりくつろいだり街を歩いてみたりしました。

月曜日はオリエンテーションで再び岡山市内を巡りました。夕方担当職員と一緒に八木医師と榎田医師との打合せのために岡山大学病院を訪問しました。ここでも指導医はとてもあたたく私を迎えてくれ、岡山医大大学病院での研修の計画を立てました。打合せの後、安心したと同時にとても志気が高まりました。

研修は翌日から始まりました。午前8時前に病院に着き、指導医の榎田医師に病棟での回診と手術室へ案内していただきました。榎田医師が私を医局職員に紹介してくださったので新しい環境をよりよく知ることができました。その後私にとって研修で初めての手術である肝切除術が始まりました。なんと手術に参加させていただくことができました。来日前には研修では手術を見学することだけを想像していたので、手術に参加することは想像

もしておらず本当に幸せでした。手術は長時間でしたがどれだけ時間が経ったか気付きませんでした。ただ喜びを感じる時間でした。

毎週定例の消化管外科と肝・胆・膵外科のカンファレンスがありました。さらに他の職員にも会い、カンファレンスで多くの知識を得ました。指導医が病棟の患者の診察に連れて行ってくれました。見学を通してどのように患者を処置し計画的で適切にケアするか榎田医師から学びました。私にとってとても勉強になる時間でした。外来診察部門で患者を診察することで日本ではどのように手術を控えている患者の準備を整えるか、どのように術後の患者をケアするか実践的に学びました。木曜日午前に八木医師の肝・胆・膵外科の病棟の回診を見学しました。八木医師から学ぶ機会を得られて本当にうれしかったです。

めずらしい肝再移植手術がありました。こういった手術を目の当たりにできるというのは実に素晴らしいことです。手術は15時間ほどかかる長時間の手術でしたが時間など気になりませんでした。八木医師も彼の人生で最も難しい手術だったとおっしゃっていました。高度な研修におけるまたとない機会だったと満足感を得ました。その翌日には日本語講座に出席しました。初めはとても難しかったのですが日本語講師はとても粘り強く指導してくださいました。何より初めて習う言語に興味を持ちました。日本語に日に日に慣れました。

次の週は再び病棟での回診と、月曜日午前中には術後の経過観察のカンファレンスと外来診察がありました。火曜日には膵部頭癌の手術があり、この手術で日本の世界レベルの技術力を目にすることができました。手技から多くを学べた大変貴重なケースでした。水曜日には朝のカンファレンスで職員の前で自己紹介をしました。日本人の前で話をするのは喜ばしいことでした。

日本全国から日本人外科医が集結した金沢での第72回日本消化器外科学会総会に参加する機会を得ました。早朝に岡山駅を出発し新幹線で金沢に向かいました。新幹線を見るのも乗って旅行するのもこれが初めての経験でした。チケットは大変高価ですが旅費や金沢での滞在費全てが岡山県から支給されたので心配の必要はありませんでした。学会では色々な日本人医師による最新の発表を聴講し多くを学びました。兼六園の近くで開催された夕食会にも参加し日本の伝統舞踊やショーを鑑賞し、楽しいひと時を過ごしました。翌日も学会で最新の治療や発表の内容についてディスカッションをしました。日本中からの外科医と知り合い人脈の輪を広げることができ、金沢での学会の3日間は最高の経験でした。そして再び岡山に向かいました。

週のスケジュールに沿って再び研修が始まりました。ほとんどの時間を榎田医師とフシミ医師と過ごしました。病棟で患者の処置や術前準備、手術方法、適切な組織解剖方法やすべての処置でどのように安全に最新の技術を施すかについて学びました。帰国してすべての経験と知識を患者や同僚、若手医師に届け、技術を活用したいと思います。

手術の機会と言えば、数多くの肝移植手術、肝切除手術、胆管癌手術や最も難しい膵頭部、膵体部、膵尾部の手術のような色々な膵臓手術を観察させていただきました。八木医師、榎田医師、ほとんどすべての肝・胆・膵外科の医師たちの手術に立ち合わせていただきました。

これは私にとってだけでなく私の同僚や患者にとっても大変有意義なことです。また岡山に戻って来られることを願っています。

岡山県と国際交流協会の企画で色々な場所に視察旅行に行きました。岡山県内の中心部や地方などを訪れ日本文化に触れることができました。そこでは日本とミャンマーの文化的相互関係にも気づきました。世界中の外国人を惹きつける大変美しく素敵な場所を数多く訪問し、長期間で日本や日本の伝統について日ごとに理解していきました。それらは専門以外での蓄積となりました。

榎田医師と肝・胆・膵外科の医師と学会に参加するために松山市も訪れました。岡山県と香川県を繋ぐ日本で最も長く美しい橋の一つである瀬戸大橋を目にしました。移動中橋の建設の話をお聞かせいただきました。また、美しい犬島や高松市から近い有名な 2 つの島にも行きました。景色を眺めたり、自然豊かな地域を訪問して日本文化に触れたりすることは特別な経験でした。

日本での滞在の最後の週末に東京へ旅行に行きました。世界で最も大きな都市のひとつである東京を観光しました。東京スカイツリーから東京の夜の景色を眺めました。文化的で発展した都市である横浜と鎌倉も訪れました。どちらも大変魅力的な街でした。旅を終えて新幹線で再び岡山に帰りました。

初めに私を研修員として選び岡山に送ってくださった岡田教授に深く感謝したいと思います。岡山県国際課課長、岡山県国際交流協会事務局長をはじめ関係のすべての方々にも感謝いたします。岡山での滞在は表現しようもないほどすばらしい貴重な時間でした。専門技術研修だけでなく日本文化に触れ、日本人と関わることができました。

ここで得たすべての知識と経験を母国の同僚へ持ち帰り、私の技術を患者に施すことを固く誓います。重ねてすべての方々に感謝と敬意を表します。もしまたチャンスが巡ってくるなら、ここに再び帰ってくることを強く望みます。